

校長室より

暗唱だより

令和8年1月
第三吾孺小学校
川中子登志雄



松尾芭蕉とその弟子・曾良

あけましておめでとうございます

令和8年（2026年）、^{うまどし}午年のはじまりです。

人と馬とは大昔からかわりがあり、自動車など機械が人を運ぶようになるまでは、馬が何よりの「のりもの」でした。戦国時代の武将のイメージにも必ず馬がでてくるように、戦争の有力な「どうぐ」としても使われていました。私も牧場で馬に乗せてもらったことがあります。思っているより高く、見とおしがよかったのを覚えています。今では、乗馬や競馬などが私たちとの主なかわりですが、最近では「人をいやす」存在としても馬が注目されているそうです。たしかに馬はやさしい目をしていますね。（動物はたいてい、やさしい目をしていますね。）馬には、人のところを感じとる力があるようで、馬とふれあうことで、病気がいやされたりするのだそうです。

^{うまどし}午年の^{ことし}今年は、みなさんにとって、すべてが「うま」くいく^{とし}年になるといいですね。

1月の暗唱は「花の俳句 冬～早春」

俳句は「5」「7」「5」という、17の音でつくられた、もっとも短いかたちの詩です。もとは江戸時代にあった「連歌」や「俳諧」という遊びのはじまりの部分からうまれました。俳句には、春・夏・秋・冬などの季節を感じる言葉（＝「季語」という）をいれるきまりがあります。短い言葉の中に自然の美しさや気持ちをこめることで、読む人に景色が思いうかぶのが特徴です。言葉あそびのように楽しく、だれでも気軽に作れる日本の伝統文化です。

^{まつおばしろう}松尾芭蕉 江戸時代の有名な俳句の名人です。「俳句の先生」といってもいいくらい、多くのすばらしい俳句を作りました。いろいろな場所を旅しながら自然を見て、そのとき感じたことを俳句にしました。

^{あくとたがわりゆうのすけ}芥川龍之介 大正時代に活躍した芥川龍之介は『羅生門』や『蜘蛛の糸』で有名な小説家ですが、実は俳句もたくさん作った俳人でもあります。

^{まさおかしき}正岡子規 近代日本を代表する俳人・歌人・評論家で、俳句と短歌の世界を大きく変えた人物です。

1月の英語暗唱は「あつあつのまめがゆ」

“Pease Porridge”は、イギリスの伝統的な料理「豆のおかゆ（豆の煮込み）」です。